



理事長宅の「三本の白樺」

新年明けましておめでとうございます。皆様には新しい年を如何にお迎えでしょうか。昨年は当施設へご支援を頂きまして有難う御座います。本年も当施設への変更らぬ御支援を宜しくお願い申し上げます。

最近身近で何気ないものを見て、色々感じる事が多くなってきました。夏に信州のホテルの庭で見た光景、抜けるような青い空、赤いレンガで囲まれた真つ青なプール、その側に白樺の木が緑の森をバックにすっきりと映え爽やかな涼風が吹き抜けるこの光景が忘れられず、我が家の庭に白樺の木を 植えたいと思いつき植木屋さんに聴いてみました。「東京で白樺は無理で育ちませんよ」と言われました。しかし諦めきれず 「駄目もともでもいいから植えてみてくださいか?」と三本ばかり植えました。何故思わ

「三本お願いします」と言ってしまったのか、単に一本ではさびしいから三本位が適当なのではということだったと思います。三という数字をよく考えてみるとなじみが深く、日本三景や三庭園、三三九度、三顧の礼、三杯酢、三銃士、古いところではトリオロスパンチョス、コントでは脱線やてんぷくトリオ、最近ではアベノミクスで急に有名になった毛利元就の三本の矢などなじみの深い数字です。

シラカンバ(別名シラカバ)は信州や北海道など涼しい所に多い落葉樹ですが東京では育ちにくいので余り見かけないのかも知れません。春先には樹液が多く、人口甘味料キシリトールの原料になると言われているので蟻達にとっては絶好の巣になるのでしょう。三本の白樺を植えてから約二十年が経ちましたが、今も元気に三本すくすく育っています。背丈の成長を詰めているため、幹がどんどん太くなっています。

三本にそれぞれ一郎、二郎、三郎の名前をつけました。現在一郎は一番南側に植えたので幹の周囲は太く六十三センチ、



三本の白樺

No.28 (平成26年)

社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院・みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会

— 連絡先 —

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話042-561-2521(代表)
東京小児療育病院

Eメール terh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実に
積極的に取り組み障害児者と
その家族を支援します

- 1頁 理事長のご挨拶
- 2頁 「奇跡の松」その⑤
- 3頁 日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会報告
- 4頁 関東申信越静肢体不自由児施設長・事務長会議の開催
- 5頁 自衛消防訓練
- 6頁 日本重症心身障害者学会学術集會報告
- 7頁 日本障害者歯科学会優秀論文賞受賞
- 8頁 新人職員紹介(代表) 西多摩だより

五〇周年記念事業募金趣意書
後援会だより オルフエの会 バザー案内
ご寄付者名簿

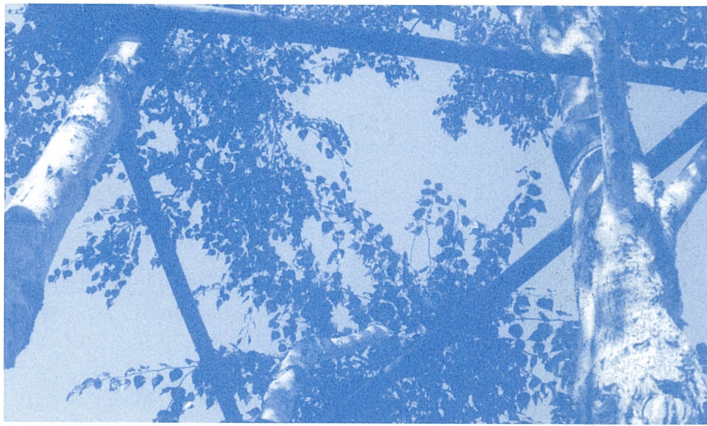
二郎は真中で四十センチ、三郎は北側に植えたので三十七センチと細い幹径になっています。昨年三郎が急に元気が無くなり、葉のつきかたもおかしいので良く見たところ幹の根元が空洞になっていて、蟻の巣が出来ていました。あわてて頻回に消毒をして、根本を見易くするために周りの芝生を切りましたが、根本から六十センチ程が痛々しく幹の半分位が空洞になってしまいました。真つすぐに伸びていた幹も傾いてしまいました。

折悪く台風が近付いて来たため、植木屋さんに相談したところ、補強するためにお互いをくり付けましょうと言う事で、一番太い一郎を中心に丸太でお互いをしつかり結びました。幸い事なきを得ましたが、三郎は夏も葉のしげりが少ない状態でした。

ふと考えてみると私達人間社会の生活もこの三本の白樺と同じだと感じました。家族の中で兄弟や姉妹三人のうち誰かが病気をすれば、お互いに助け合いが必要です。さらに良く考えてみると私達の施設の役目も全く同じだと思います。白樺の二本はそれぞれ親であり兄弟で、三郎を支えていく家族に当たります。丸太は三本が倒れないように助ける私達の施設の役目に相当します。しかし丸太のくり方をよくみると、それぞれ縄で締め付けてある部分には幹に傷がつかないように布がしっかりと巻いてあり優しい配慮がしてあります。この布はとりも直さず私

達の施設を支えて戴いている支援の方達に相当するのではないのでしょうか。三本の白樺の木の側には前回「はぐくむ」に書きました「なんじゃもんじゃ」の木が元気にすくすく育ち、声援を送ってくれているようです。

毎年全国各地の多勢の方達が私共の施設を応援して戴いており、感謝に耐えません。来年は当施設も創立五十周年を迎えます。記念の植樹も何にしようか考えています。スタッフ一同また心を新たにしています。障害児者のために頑張っていきたいと思しますので変わらぬ御支援を宜しくお願い申し上げます。



理事長宅の「三本の白樺」

「奇跡の松」

その⑤

会長 五島 瑛智子

今秋（二〇一三・一〇・一〇）あの陸前高田の奇跡の一本松が千葉市花見川区検見川の銭湯「梅の湯」に現れたニューズを知りました。

店主の長沼三三六氏（68）は「復興の願いを込め被災地の繪を描く」という心意気から、国立市の背景繪師丸山清人氏（78）に依頼したそうです。

水平線から上がる朝日を浴びて緑の葉をつけた松の木がすくすくと伸びる。青空には白雲がたなびく・・・千葉の銭湯なら電車にのつてもそう遠くはないので、入浴の支度をして背景に描かれた一本松の繪を見に行こうと思いましたが、近頃は銭湯（松の湯、大黒湯）もいつのまにか失くなってしまっています。何十年ぶりで懐かしい銭湯に行くことを思っとうきうきしました。

でもすぐにそれは無理ということに気が付きました。一本松を描いたのは男湯だけで女湯の背景画は富士山なのだそう。富士山は銭湯の背景画としては定番で珍しくない



銭湯「梅の湯」の奇跡の一本松

いと思いましたが、富士山も世界遺産になったので、気分を新たに描いたのでしよう。いつか開店前の「梅の湯」に行き背景に描かれた奇跡の松を見に行きたいと思っっています。

日本重症心身障害福祉協会

東日本施設協議会報告

東京小児療育病院院長 椎木俊秀

平成二十五年十一月七日から八日にか

けて新潟県長岡市で第四十回日本重症心身障害福祉協会東日本施設協議会が開催されました。会議は長岡療育園を中心にあゆみの郷、石川療育センター、金沢療育園、小松療育園、信濃医療福祉センターが担当しました。当院からは私と西藤副院長・看護部長、吉田総務部長、柳瀬生活支援部長、八代看護科長が参加しました。プログラムの概略は以下の通りです。

1、特別講演

「重症心身障害児・者の

医療療育の変遷」

北海道療育園 理事長 岡田喜篤

2、シンポジウム

「地域における在宅重症心身

障害児・者支援の現状と課題」

①北海道東北地区

北海道療育園 園長 平元東

②関東地区一

光の家療育センター 施設長

鈴木郁子

③関東地区二

東京小児療育病院 院長 椎木俊秀

④東海北陸甲信越地区

長岡療育園 副園長 吉川秀人

3、調査研究・報告

特別講演では昭和四十年代から重症心身障害療育に携わり、重症心身障害児施設長や北星学園教授、川崎医療福祉大学学長などを歴任された岡田喜篤先生から、重症心身障害児という障害名の誕生の経緯や当時の重症心身障害児・者の置かれていた状況やその後の変遷、さらに諸外国の障害観の違いなど多岐に渡るスケールの大きな話がなされました。

シンポジウムでは各地区で積極的に在宅重症心身障害児・者の支援を行っている施設からの報告が行われました。当院も関東地区の一つとして選ばれ報告されていたいただきました。今年の五月に開かれた日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会でも「入所機能と在宅支援機能の将来像について」という題で報告させていただきました。たいはばかりでしたが、当院の実績が一定の評価を受けているものと考えられたいへん光栄に思いました。

それぞれの地域や施設の置かれている

状況は非常に異なるため、一つのモデルだけで考えることは不可能で、それぞれの状況に合ったシステムの構築が重要だと改めて認識させられました。例えば北海道には八つの重症心身障害児・者の入所施設がありますが、旭川から稚内まで約二百五十kmあり、そこに最も近い施設は北海道療育園ということになります。一方、当院は東京都の北多摩西部地区、西多摩地区を中心とその周辺の方々を含めて支援を行っています。せいぜい二十〜三十km程度です。東京都の問題は東西格差です。東京都の多摩地区は全国で最も重症心身障害児・者の入所施設が密集している所で七つありますが、区部には三つしかなく、ベッドの数は多摩地域の二七、五という状況です。

それぞれの置かれている状況に違いはあってももちろん共通点もあります。施設への長期入所を希望されている方は全国で約三千七百名いらっしゃいますが、入所できるベッドに限りがあるため、引き続き在宅支援を強化していく必要があります。そのためには自宅から通える通所施設や必要時に預かってもらえる短期入所（ショートステイ）が必須のサービスになります。さらに気管切開、人工呼吸器、痰の吸引、経管栄養などを行っている、濃厚な医療的ケアが必要な方々への支援がとても重要になって来ています。

経営的な観点からも濃厚な医療的ケアのある方々を積極的に診ていくことが求め

られています。違いや共通点に気づいたり確認できた有意義なシンポジウムでした。

当院は長期入所、短期入所、外来、通所、訪問看護、地域支援どの分野をとっても全国有数の実績を誇っています。障害児・者のライフステージ・発達ステージに応じた包括的療育支援を行ってきています。全体としてみればかなりのサービスを提供できていると思いますが、利用者の方々が求めている状況には程遠いですし、一つ一つを取ってみれば、当院よりはるかに優れた実践をしている施設もたくさんあります。利用者の皆様の要望に真摯に耳を傾け、全国の素晴らしい経験や実践から学び、さらに優れたサービスが提供できるように努力したいと思えます。そのためにも人材育成と経営の安定のさらなる強化が求められます。中でも全体を俯瞰する「鳥の目」、個々の現実を直視する「虫の目」、激動する動きを正確にとらえる「魚の目」を併せ持つ組織になれるよう、人材育成を組織運営の中核に据えて取り組んでいきたいと考えています。



関東甲信越静肢体不自由児

施設長・事務長会議の開催

総務部長 吉田 廣通

平成二十五年度関東甲信越静肢体不自由児施設長・事務長会議が平成二十五年十一月十四日(木)～十五日(金)までの二日間の日程で東京都立川市内のグランドホテルにおいて、今年度は幹事施設である当施設が主催して開催されました。

初日の午前中は、本会議の参加施設のうち運営形態が民間である九施設による民営部会が行われました。部会は、事前に提示されていた次の協議事項について、各施設の現況や問題など活発な討論と意見交換が行われました。

- ①リハビリテーション総合実施計画と家族同意
- ②発達障害児の診療点数
- ③アレルギー等の禁止食の調理方法
- ④制度改正に伴う職員の意識改革への取り組み

午後からは、関東ブロックの十五施設三十六名が参加する本会議が開催されました。会議においては、今年度の事業報告と会計報告があり、次に役員の任期満了に伴う平成二十六年度から二年間の役員選出が行われました。当院は、引き続き会計の職に選任されるなど役員全員が再選されました。その後、各施設から提案のあった次の事項について協議をしました。

- ①児童発達支援センター設立に向けて

- ②保険証及び受給者証の管理
- ③電子カルテの導入及び紙カルテの保存について
- ④医療型障害児入所施設の将来像

各協議事項においては、各施設から多くの意見や質問などが出されました。特に児童発達支援センター設立については、行政側の強い要請や一方で設立に当たっての人員配置基準に基づく人員確保の問題などの意見が出されました。又電子カルテの導入については、電子カルテの職員の理解や対応問題など導入に消極的な施設もありましたが、今後は福祉・療育分野にも電子カルテは不可欠など前向きに検討している施設が数多く見受けられました。次に、医療型障害児入所施設の将来像については、重心と肢体の報酬の格差問題、入所者の年齢超過と受入施設の確保問題など経営と運営における問題解決や一方で国の考えや方向性が見えないなど厳しい現状や問題の指摘が多く出されました。

本会議を構成する旧肢体不自由児施設においては、この間の制度改正に伴い、旧重症心身施設と同様に将来の施設の在り方や事業の見直しを行わざる得ない状況の中、既に見直しに着手している施設もあるが多くの施設が現在も検討を重ねている状況にある。国の動向、方向性が

もう一つ定まらないところで対応に苦慮している施設が多く見受けられました。二日目は、施設見学ということで幹事施設である私共の病院に、十名の見学者が訪れました。最初に八代看護科長から当院が取り組む事業の説明を行った後、二班に分れて施設の見学を行いました。その後、椎木院長から人材育成、IT活用した院内情報の共有、迅速な情報提供など病院の取り組みについて説明するなど参加者との交流を行った。以上で二日間における会議は無事に終了いたしました。

最後に、資料作成、会場準備や当日の会議運営に従事、協力していただいた職員の皆様に本紙面をお借りして心よりお礼を申し上げます。



当院の施設見学説明会の様子

自衛消防訓練

に参加して

庶務課 堀内 政彦

九月二十日(金)に東京小児療育病院の向かいにある東京経済大学村山校舎サッカ―場にて、平成二十五年度自衛消防審査会が北多摩西部消防署主催で行われました。

当日は、当院職員も参加した二名で行う二号消火栓の部と、大規模施設対象の三名で行う一号消火栓の部に分かれ、合計三十施設、三十一隊百八名の出場となりました。

各施設職員が、火災が発生した際の通報・初期消火等の活動が迅速かつ的確に実施できるかを披露し、消防隊員によって審査されました。

結果は残念ながら入賞となりませんでした。しかし、残暑が厳しい中での審査会、またそれに向けた消防署での訓練を通じ、日常における施設内の防火・防災活動に活かせる技術や意識を高めることができ、非常に充実した日々となりました。



日本重症心身障害学会 集会報告

生活支援部 科長 小谷 義 広

日本重症心身障害学会は、一九七五年に日本医師会会長の提案により、医師を中心とした重症心身障害研究会として発足しましたが、一九九六年には他職種が参加してより広い議論が可能な日本重症心身障害学会と改称され現在に至っています。

今年度は、九月二十六・二十七日両日にわたり、栃木県宇都宮市・栃木県総合文化センターで学術集会在開催されました。二年後には当施設が開催施設になるとのことで、その視察も兼ねて参加しましたが、様々な講演、シンポジウム、ランチオンセミナーなどが組み込まれており、また、発表も会場発表とポスター発表の二種類があり非常に情報量の多い集会以、参加者も延べ九千名という規模で行われていました。

シンポジウムのひとつでは、「災害時の重症心身障害児者への支援」ということで、東日本大震災を実際に体験した東北の施設や特別支援学校、またボランティア団体などから貴重な体験談が語られ今後についての議論が交わされました。施設ならではの課題や問題解決のためにしておかなければならないことなど、当施設も震災対策を検討中なのでとても参考になりました。

発表内容は、様々でしたが、日常的な利用者との関わりの中から行った研究が多く、重症心身障害児者に対する医療・

福祉・地域支援など様々な取り組みが、全国でなされていることを改めて実感しました。当施設は、重症心身障害の療育・利用者の生活という分野では、全国でも高い水準にあると自負していますが、スタッフレベルではそれにつながるケアや支援を日常的に行っているためにその認識はなく、当たり前になっているのが現状です。このような学術集会に参加する意義として、他施設の状況を知ることにより、他施設の優れた取り組みを自施設に活かすことが一番にあげられると思いますが、それがかなわなくても、自施設の良いところやレベルを確認できることは意味があるととらえます。そのことを裏付けるように、様々な学会参加後「東京小児療育病院では普通に行っていることを他の施設では新たな取り組みとして始めている。このレベルの高さがわかった」というような感想が聞かれることが多くあります。また、一定レベルに新たなものを加えないと研究にならないと考えてしまい、日常当たり前に行っていることでは発表できないと思っていました。二年ほど前から当施設で日常的に行われていることも積極的に表に出すようにしています。この学術集会でも、看護部を中心に新たな取り組みを含め数題の発表がなされ、全国へ向けて発信することができました。

日本障害者歯科学会

優秀論文賞受賞

歯科医師 萩原 麻 美

論文概要の掲載

Lesch-Nyhan (LNS) 症候群は、乳歯萌出期より認められる口唇、舌および頬粘膜の自傷行為が特徴的な疾患であり、多くの患者様は口腔周囲の自傷行為に対する対応を希望されて歯科を受診されます。対応策としては、装具による抑制、内科的投薬と併せてさまざまな歯科的対症療法が施されていますが、現状では確実かつ安定した効果が得られていません。

本症例は、私が障がい者の歯科医療に携わるようになって間もない頃に出会った患者様です。一歳九か月時より自傷行為が出現し、マウスピースを装着しておりましたが、患児が五歳時に過緊張から自傷行為が激しくなり、全身状態が増悪したことから、保護者、小児科医、整形外科医と相談の結果、ポツリヌスA型毒素療法を試みました。ポツリヌスA型毒素は、一九七七年米国のGottが初めて斜視に対して臨床使用し、以後さまざまな神経学的疾の治療に使用されている最も安全かつ有効な神経毒です。障害者歯科の分野では歯ぎしり症や本症例と同様、LNSの患者の自傷行為にも効果が報告されています。

今回の臨床経験により、継続的なポツリヌスA型毒素療法はLNSの患者の自傷行為の抑制に非常に有効であることが示唆されました。外来における短時間施術が可能であり、副作用も認められませんでした。しかしながら、その効果は短期間（三〜四か月）であり、コストが高いという欠点があります。また、使用に關するガイドラインが存在しません。今後より効果的な注入部位、適用量および副作用を評価に取り組んで参りたいと考えております。

最後になりましたが、本研究に協力していただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

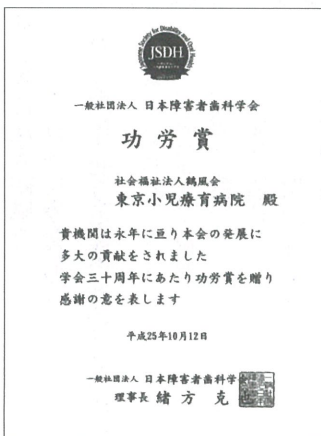
受賞論文

Lesch-Nyhan症候群患者の口腔自傷に対するポツリヌスA型毒素療法の効果
掲載号 第三十三巻 第一号 六十一〜六十五頁、二〇一二年

日本障害者歯科学会

施設表彰「功労賞」受賞

一般社団法人日本障害者歯科学会三十周年にあたり、これまでの東京小児療育病院が実施してきた障害者歯科への貢献に対し、病院として「功労賞」を受賞しました。



新人職員紹介 (代表)

西二病棟看護師 江藤 有加

二〇一三年四月に新卒看護師として東京小児療育病院に入職いたしました。

私が重症心身障害児者の看護に携わりたいと思ったのは、大学での保健所実習がきっかけでした。保健師の業務を学ぶ実習だったので、その中で重症心身障害児を子を持つ母親のグループに参加することができました。子どもと別室に分かれ、母親たちが日々の思いを話し合うという内容です。普段常に子どもに付いていなくてはならない母親たちが、子どもを預けた後のホッとした表情が大変印象に残っています。グループが始まると母親たちが順に日々の思いを語り始めました。毎日が辛くて、誰にも気持ちが悪くわかってもらえず、協力してもらえない。それでも子どもは生きていて、自分を笑顔にしてくれる。だからこれからも頑張つてこの子を育てていきたい。母親たちが涙を流しながら話した言葉はどれも深く、今でも私の中に残っています。このとき私はこの母親たちを支えられるような看護師になりたいと思ひ、母親たちと約束をしました。

そうして東京小児療育病院で看護師として働き始め、早くも八ヶ月がたちました。まだまだ至らぬ点も多く、先輩方からたくさん指導を受けておりますが、毎

日に学びや苦悩、喜びが詰まった大変充実した八ヶ月だったと振り返っております。自分が行う手技ひとつひとつが利用者らの命に直結するということが痛いほどに伝わってくる現場で、それが辛いとは思っていた時期がありました。自分は何もできないのかと毎日のように泣いていた時期もありました。そんな時期も先輩方が気にかけて、声を掛けてくれたことで乗り越えてくることが出来ました。今では利用者らの命を繋いでいるチームの一員としてやりがいを感じながら業務に入っております。

四月まであと少しということで、先輩が入職することが決まったという話を聞きました。病棟の看護師では一番年下だということもあり、先輩ができるのとはとても楽しみな反面、自分は先輩を支えてあげることができたらどうかという不安もあります。私が辛かった時期に支えてくれた先輩方のような存在に自分もなれたらと思ひ、今は少しでも知識を増やそうと勉強に励んでいる毎日です。

これからも利用者、またそのご家族のためにより良い看護が提供できるよう、充実した日々を過ごしていきたいと考えております。



西多摩だより

御あいさつ

医師 木下 節子

二十四年十月より、小児科医として鶴風会に入職しました。木下です。今は西多摩療育支援センターと東京小児をほぼ半々、外来中心に従事しています。東京小児の渡り廊下から眺める富士の頂、西多摩の空と野の広がり、それぞれにのびやかな気持ちを感じながら、勤務しています。

私は大学卒業後、小児科医として勤務していましたが、後半は保健所や公的施設に携わり、臨床の場からは遠ざかっていました。十年前に川崎市に就職し、公衆衛生医師を続けていました。一年前に児童相談所関連部署へ異動となり、そこでの勤務で小児の発達について勉強しなおす必要性を感じました。

大学の先輩であられる鈴木先生にご連絡したところ、ころよく見学を受け入れていただきました。その後約二か月の研修を経て、小児科医として新たなスタートをきったところです。気負わず、でも自分なりに努力していこうと、勤務を続けています。宜しくお願いします。私の故郷は長崎です。最後に長崎の歌を紹介させていただきます。

朝あけて船より鳴れる太笛の

こだまはながし並みよろう山

斉藤 茂吉

社会福祉法人鶴風会

東京小児療育病院

五〇周年記念事業募金のお願い

- 1 募金の目的
 - 一、記念式典・祝賀会
 - 二、記念講演
 - 三、記念誌発行
 - 四、その他の記念事業
- 2 募金の対象者

職員及び当法人の事業活動への賛同者
- 3 募金の目標額

二千万円
- 4 募金の金額

一口5千円(できれば二口以上でお願いいたします。)
- 5 募金の期間

平成二十四年七月一日〜平成二十六年九月三十日
- 6 申込方法等

申し込みをなさる方、又募金に関するお問い合わせについては左記にご連絡をお願いいたします。

東京小児療育病院内 社会福祉法人
鶴風会後援会事務局

〒二〇八〇〇一一
東京都武蔵村山市学園 四一十一
電話 〇四二一五六一一二五二二

〔沿革〕

昭和三十七年 社会福祉法人「鶴風会」設立

昭和三十九年 東京小児療育病院

(肢体不自由施設) 開設

昭和四十五年 重度心身障害児施設

(みどり愛育園) 開設

昭和六十三年 重症心身障害児(者)

通所事業を開設

平成 十六年 西多摩療育支援センター開設



社会福祉法人 鶴風会 後援会 だより

オルフェの会に参加して

小山 悦子

昨年十二月一日、オルフェの会に参加させていただきました。三回目の参加になります。毎回、心動かされる会ですが、今回のチャリティーコンサート・ボニージャックスの歌には、殊の外、感動しました。身体障害児の詞を作品にした「車椅子のおしゃべり」など数曲の解説を伺い、その演奏を聴きながら涙が溢れるのを止めることが出来ませんでした。障害児ご自身のことはもちろんのことですが、ご両親やご家族、障害者を取り巻く地域社会のことなどが、次々と頭に浮かんできました。隣に座っていた夫を見ますと、やはり涙を拭いていました。

他方では、涙と感傷ばかりではなく、同じくこの日に演奏された「木綿」では、自身では動かせない体に触れる木綿の着衣の細やかな肌ざわりを表現し、「空飛ぶうさぎ」では、目が見える者には思いもつかない明るい想像力で、その豊かな感性は素晴らしいと思いました。

この日、東京小児療育病院の先生が、「この子らに光を・・・」ではなく、「この子らを光に・・・」ではないのか、とおっしゃった言葉は心に深く残っており、今もなぜ「に」ではなく「を」なのか、

とその意味を繰り返し問いかけながら過ごしております。

閉会のご挨拶を伺っておりますと、東京小児療育病院は本年度で創立五十周年を迎えられるとのこと。半世紀も前に、重い障害をもつ子供とその家族のために、と東奔西走された創設当時の先生方と支援者の大変なご苦労の様子を伺い、また、その後も多くの方々が献身的なご努力を重ねてこられてことを知り、根底にある人間に対する深い愛情に頭が下がる思いでした。

また、東邦大学医学部の新入生研修で、この日に聴きましたボニージャックスの歌が、毎年、演奏されることを知り、東邦大学に東京小児療育病院創立以来の高い志と優しい心根が生き続き、更に、次の世代の医療を担う学生に受け継がせようという先生方のご意思が伝わってきて、心強く思いました。

残念ながら私には特別な力がありませんが、気持ちだけは心身障害児の皆さんに寄り添っていきたくと思っております。日暮れの早い初冬の栢榴坂を下りながら、これからもささやかでもオルフェの会に参加させていただけますことを念じつつ、帰路につきました。

チャリティーコンサート オルフェの会

平成二十五年十二月一日（日）グランドプリンスホテル新高輪・国際館パミール「北辰」に於いて後援会主催のチャリティーコンサート「オルフェの会」が開催されました。第一部では、ご来賓を代表して炭山嘉伸先生（東邦大学理事長）ご挨拶、椎木院長から鶴風会の施設活動状況の報告がありました。第二部のコンサートでは、ボニージャックスの男声四重唱による「大きな古時計」、「空とぶうさぎ」、「ブルーシャトウ」など。また「かあさん」「お母さん」は、全国各地の重症心身障害児（者）施設の利用者が作詞された曲も披露されました。最後に全員で「四季の歌」を歌い、盛会裡に終わりました。



ボニージャックスコンサート

平成25年度 チャリティーバザー終了報告

昨年十月二十日（日）に、施設改修等の資金確保を目的としたチャリティーバザーを開催しました。当日は予想を超える雨量にも関わらず、朝早くから多くのお客様に会場頂きまして、無事に開催することができました。

また、会社・団体等ならびに個人様から多くの御協賛を頂き、ご寄付を合わせて二〇〇万円を超える収益となりました。この収益金、二十六年度以降に計画する施設改修等の資金に充てさせていただきます。経済情勢が厳しいなか、ご協力いただきました皆様に深く感謝いたします。



来場者、ボランティアなどにお餅を提供(会場にて)

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名

平成25年7月〜平成25年12月

193名(五十音順・敬称略)

青木りう子・浅川 恭行・浅見 信哉
 朝山 裕・蘆立 かつ・東 恵子
 足立茂代子・足立 嘉子・阿部 正和
 安部 良治・天沼 満・新井 恒子
 荒井 陽子・有村 章・飯岡紀一郎
 飯国 弥生・飯国洋一郎・井澤 正博
 石北 壽子・石田 哲朗・五日市緒里枝
 五日市 敬・伊藤 文子・伊藤 元博
 猪俣賢一郎・白井 潔子・内ヶ崎仁子
 内野 正文・海野 俊雄・梅田 正法
 梅田 嘉明・荏原 寿枝・荏原 光夫
 桜蔭学園生徒会・大塚 慶子
 大山 みつ・岡崎 秀也・小野田 絹
 小原 明・小原 桂子・小原 該一
 鹿島田忠史・柁原 宏久・金森 勝士
 金親 正敏・金子 晴生・鎌田 昭次
 鎌田 直子・亀井 敦行・河津 緑
 菅野 俊一・菅野 壽子・北野千賀子
 鬼頭 秀明・木村 裕・木山 博夫
 楠山 一男・久保さや佳・久保 修一
 久保 博・倉根 理一・黒木 貴夫
 黒瀬 恒幸・黒瀧 俊彰・月花 亮
 高亀永美子・高亀 則博・幸田 文一
 神山 悠子・小菅 孝明・許斐 貞子
 小林 寅結・小林純二郎・斎藤 則善
 境 敏秀・先山 隆司・笹井 麻子
 佐藤 中・佐藤 和子・佐藤 重雄
 佐藤 忍・佐藤 俊郎・澤井 寛人

志鳥真理子・篠原久美子・柴 忠明
 柴 迪子・島田 敏雄・嶋田 寛子
 島津和貴男・島野 光・清水 一輝
 清水 友里・莊子 英彦・洲鎌久美子
 杉 薫・杉本 寛子・杉山 卓哉
 杉山 尚子・鈴木 秀明・炭山 朋子
 炭山 嘉伸・高木 利明・高槻 義夫
 高橋 清子・武田 毅・谷口 利江
 田原 久子・田部 秀山・田宮 親
 月本 一郎・月本 伸子・土屋 俊文
 堤 俊一郎・長岡 貞雄・長澤 貞継
 中谷 尚登・中野 重徳・中村志津子
 中村みゆき・中村 豊・並木 温
 西宮 常代・根本 勤・能谷 正雄
 野口ケイ子・野沢 明子・延島 幸子
 野中 杏栄・野中 博子・延 明子
 野村 直子・野村 正征・萩沢 雅子
 萩原 マチ・橋口 玲子・長谷川俊一
 畑 靖子・花岡嘉奈子・花岡 正智
 早川 浩市・林 京子・早原 千鶴
 原 まどか・原田千鶴子・原田 則雄
 原田裕美子・原山 国秀・樋口志津子
 土方 淳・平田 徹・平間 芳子
 福井 卓也・藤田よし江・馬嶋 順子
 増田登志子・松橋 京子・松橋 求
 松原 龍弘・松本 章・松山 潤一
 丸山 和子・丸山希実子・水野 惇子
 水吉 秀男・三宅 三・宮崎 元伸
 宮地麻美子・向山 和代・向山 秀樹
 向山 徳子・武者 芳朗・村川 公一
 村川世津子・村井 昌允・百瀬せつ子
 森 克彦・森 紘子・盛川 洋一

安土 達夫・矢野 春雄・山川ふみ子
 山口久美子・山口 美穂・山中みよ子
 山村 憲・山本 高裕・吉野谷友香
 吉見 梓・柴満 礼子・若江恵利子
 釜范 登志・吉澤 照

31名(五十音順・敬称略)

平成25年6月〜平成25年11月

社会福祉法人鶴風会へご寄付者(芳名法人・団体個人)

阿部美代子・飯塚 忠春・大貫 淳
 大場 幸延・小山田 真・加藤奈津子
 上岡 謙夫・神谷 英治・川島美恵子
 白石 祐子・杉本美代子・清宮 祥子
 竹中 幸宏・田中 淳子・高橋 孝彦
 西原 憲二・橋詰 美佐・松尾 賢二
 松本 誓子・森田 英雄・守田 洋
 山下 順子・山下 展男・山谷 登
 山田耕一郎・父母の会
 通園みどり保護者会・NPOわらべ
 あゆみ保険事務所 杉林 勤
 財団法人計量生活会館 理事長 北條芽以
 都立あきる野学園PTA

五十周年記念事業募金ご寄付者ご芳名

平成25年7月〜平成25年12月

35名(五十音順・敬称略)

相澤 公子・相澤 洪志・青柳 利一
 秋本 高弘・飯村 誠・石田 美幸
 出野 慶子・伊藤 治男・伊藤 雅子
 海老原明次・海老原健介・大川 貞治

編集後記

表紙にある、白樺を用いた樹皮細工とは、その名の通り、木から剥がした白樺の樹皮を使って、手作業で編み込んでいくものです。自然素材&手作業で作るため、ひとつひとつ色も形も違う、オリジナルな作品となります。白樺樹皮細工は、古来より北欧・ロシア・中国などで作られています。中でも、豊かな白樺林の多い北欧では、実用品、伝統工芸品として発展してきました。

強度としなやかさを併せ持ち、長く使える白樺樹皮作品は、時と共に変化していくその風合いも好まれています。

また日本においても、北海道や長野県でも豊かな白樺林があり、白樺を用いた工芸品があります。歴史は大正期から日本アルプス登山客向けの土産品として製造・販売されたものが発祥でした。アルプス動物等を題材とした郷土色豊かな工芸品もあるそうです。

本アルプス登山客向けの土産品として製造・販売されたものが発祥でした。アルプス動物等を題材とした郷土色豊かな工芸品もあるそうです。

編集委員会

